

第74回福島県高等学校PTA連合会

# 会津大会集録

ともに考え ともにつくる

～ 子どもたちの未来のために ～



と き	令和6年5月30日(木)・31日(金)
と ころ	会津若松ワシントンホテル
主 催	福島県高等学校PTA連合会
後 援	福島県教育委員会 会津若松市教育委員会 日本教育公務員弘済会福島支部
大会事務局	福島県立会津工業高等学校

# 目 次

## あいさつ

福島県高等学校PTA連合会会長 鈴木 健児 . . . . 1

第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会実行委員長 渡邊 忍 . . . . 2

開会式・表彰式 . . . . . 3

高校生のアトラクション . . . . . 4

大会次第 . . . . . 5

第74回福島県高等学校PTA連合会顕彰者名簿 . . . . . 6

来賓名簿 . . . . . 7

大会役員名簿 . . . . . 8

講演会 . . . . . 11

## 分科会

第1分科会 総務委員会 . . . . . 15

第2分科会 進路対策委員会（就職） . . . . . 18

第3分科会 進路対策委員会（進学） . . . . . 22

第4分科会 健全育成委員会 . . . . . 29

第5分科会 調査広報委員会 . . . . . 31

## 編集後記



## ごあいさつ

福島県高等学校PTA連合会

会長 鈴木健児

皆さん、こんにちは。先に行われました総会におきまして、引き続き今年度の県会長を務めることになりました、橘高等学校、父母と教師の会会長の鈴木健児と申します。本日はお忙しい中、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、また久しぶりに県高等学校PTA連合会の会員の皆様とこうして集まれたことを、大変うれしく思います。

74回目を迎えました福島県高P連の県大会ですが、今大会のテーマでもある「ともに考え、ともにつくる」、ここにすべてが込められている。と私は思っています。

私たち保護者と先生方が、手を取り合いながら、子供たちのために出来る事をともに考え、ともに作り続けた結果が74回という数字にあらわれていると思っております。

昨今、PTAを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。残念ながら順風満帆とは言えない状況に差し掛かっていると私は危惧しております。

しかしながらPTAの要不要を抜きにしても、保護者が、教師が子どもたちの未来を思っていることは不変の物である事実が変わりはありません。それを具現化するための団体としてPTAというものがあつ続けるために、皆様のお力を、知恵を拝借して、もう一度PTAというものをともに考え、ともに作るための日にしたいと思っております。

最後になりますが、会津大会の開催にあたり、福島県教育委員会をはじめ、関係諸団体の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

そして、渡邊忍実行委員長をはじめ、大会実行委員の皆様、今日のためにいろいろとご尽力を賜りました。重ねて御礼申し上げます、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。本日はよろしくお願ひいたします。



## 歓迎のあいさつ

第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会

大会実行委員長 渡 邊 忍

みなさん、新緑の会津へようこそお越し下さいました。久しぶりの対面開催となる第74回県大会が、会津で開催できることをうれしく思います。本大会の開催にあたり、ご協力いただきました全ての皆様に感謝します。

今大会のテーマは「ともに考え、ともにつくる」です。子どもたちを取り巻く環境は変化のスピードを上げています。ロボットやAIが身近なものとなり、手元のスマートフォンから世界につながるようになりました。今日の常識は、あっという間に過去のものへと変わっていきます。世の中で必要とされるスキルが変化し、学校教育も変化が求められています。

様々なことが変化していく中で、それでも私たち人間は人との触れ合いを大切にしたい。

これからの教育や人生のことを、膝を突き合わせ「ともに考え、ともにつくる」大会になるよう、皆さんで意見を出し合しましょう。

天気予報では、とても暑い2日間となりそうです。水分補給を十分にさせていただき、天気に負けない熱い大会にしましょう。よろしくお願いします。

# 開会式・表彰式



# 生徒アトラクション

## 福島県立葵高等学校 ギターマンドリン部

福島県内唯一のギターマンドリン部として、創部40年以上の歴史を持つ。その歴史とともに校内だけでなく地域の方々に愛される部活動として活動している。



# 大会次第

第1日目 5月30日(木) <受付 12:30~>

- 1 開式のことば . . . . . 13:00
- 2 福島県高等学校PTA連合会会長あいさつ
- 3 大会実行委員長あいさつ
- 4 来賓祝辞
  - ① 福島県知事
  - ② 会津若松市長
  - ③ 福島県教育委員会教育長
  - ④ 福島県高等学校長協会会長
- 5 来賓紹介・祝電披露
- 6 表彰
- 7 受賞者代表謝辞
- 8 閉式のことば
- 9 アトラクション
  - 演奏 福島県立葵高等学校 ギターマンドリン部 14:00
  - 休憩 . . . . . 14:40
- 10 講演
  - 演題 「落花生を使った幸せ地域づくり」
  - 講師 松崎 健太郎 氏 (APJ株式会社 代表取締役)
  - 休憩 . . . . . 16:30
- 11 教育懇談会 . . . . . 18:00

第2日目 5月31日(金) <受付 8:30~>

- 1 専門委員会・分科会 . . . . . 9:00
- 2 閉会式 (各分科会ごと) . . . . . 11:30

※分科会会場

分科会名	会場
第1分科会 (総務委員会)	2F飛翔
第2分科会 (進路対策委員会・就職)	2F飛翔
第3分科会 (進路対策委員会・進学)	2F双鶴
第4分科会 (健全育成委員会)	2F飛翔
第5分科会 (調査広報委員会)	2F双鶴

## 第 74 回福島県高等学校 P T A 連合会会津大会顕彰者名簿

### 1 顕彰規定第 3 条による表彰状贈呈者

No.	所属校 (R5 年度)	氏 名	県連役員	委員会・地区会等
1	福島高等学校	鈴木 進一	副会長	調査広報委員長・県北地区会長
2	〃	丹野 純一	理 事	県北地区会事務局校長
3	〃	佐藤 達男	理 事	県北地区会事務局長
4	安達高等学校	渡邊 覚	理 事	進路対策副委員長
5	二本松実業高等学校	恩田 雪枝	監 事	
6	白河実業高等学校	小山 正枝	副会長	健全育成委員長・県南地区会長
7	〃	永山 広克	理 事	県南地区会事務局校長
8	〃	田村 和彦	理 事	県南地区会事務局長
9	あさか開成高等学校	内山 耕一	理 事	進路対策副委員長
10	〃	牧野 伸也	理 事	
11	会津工業高等学校	渡邊 忍	副会長	健全育成副委員長・会津地区会長
12	〃	松本 善法	理 事	会津地区会事務局校長
13	会津西陵高等学校	高橋 健	理 事	健全育成副委員長
14	会津農林高等学校	芳賀久美子	監 事	
15	いわき湯本高等学校	大泉きよみ	副会長	健全育成副委員長・会津地区会長
16	〃	阿部 学	理 事	いわき地区会事務局校長
17	〃	藤田 絹江	理 事	いわき地区会事務局長
18	いわき光洋高等学校	風間 健介	理 事	進路対策副委員長
19	相馬総合高等学校	齋藤 久	副会長	進路対策委員長・相双地区会長
20	〃	中村 康伸	理 事	相双地区会事務局校長
21	〃	今野 貴文	理 事	相双地区会事務局長
22	原町高等学校	西 道典	理 事	健全育成副委員長

### 2 令和 5 年度福島県高等学校 P T A 連合会広報紙コンクール 優秀賞贈呈校

No.	学 校 名	紙 名	備 考
1	伊達高等学校	「あぶくま」 開校準備号	東北：優良賞
2	平商業高等学校	「なかしお」 第 85 号	東北：優秀賞
3	いわき湯本高等学校	「P T A N e w s」 Vol.2	東北：優秀賞

## 第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会来賓名簿

職 名 等	氏 名
福 島 県	
1	知 事 内 堀 雅 雄
会 津 若 松 市	
2	市 長 室 井 照 平
福 島 県 教 育 委 員 会	
3	教 育 長 大 沼 博 文
会 津 若 松 市 教 育 委 員 会	
4	教 育 長 寺 木 誠 伸
福 島 県 高 等 学 校 長 協 会	
5	会 長 (福 島 高 等 学 校 長) 丹 野 純 一

(順不同・敬称略)

## 第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会役員名簿

大会会長・県高P連会長

大会副委員長・同副会長（県北地区高P連会長）

大会副委員長・同副会長（県南地区高P連会長）

大会副委員長・同副会長（会津地区高P連会長）

大会副委員長・同副会長（いわき地区高P連会長）

大会副委員長・同副会長（相双地区高P連会長）

大会副委員長・同副会長（県高P連事務局校長）

大会副委員長・同事務局長

鈴木 健児

大河内 威

猪狩 勝

渡邊 忍

山崎 建見

和田 菜子

菊池 直之

大和田 修

大会実行委員長	
渡邊 忍	会津工業高等学校 PTA 会長

大会事務局長	
佐藤 正道	会津工業高等学校校長

大会実行副委員長	
安部 耕一	会津西陵高等学校 PTA 会長
星 道男	若松商業高等学校 PTA 会長

大会事務局次長	
長尾 好章	会津工業高等学校 PTA 副会長
石田 桂子	会津工業高等学校 PTA 副会長
伊関 廣二	会津工業高等学校 PTA 副会長
佐藤 孝則	会津工業高等学校教頭
渡部 和成	会津工業高等学校事務局長

大会実行委員	
田場川貴光	会津高等学校 PTA 会長
鈴木 拓子	葵高等学校 PTA 会長
中山 拓也	会津学鳳高等学校 PTA 会長
明間 正人	喜多方高等学校 PTA 会長
渡邊 大輔	喜多方桐桜高等学校 PTA 会長
吉野 貴之	猪苗代高等学校 PTA 会長
渡邊 昌人	西会津高等学校 PTA 会長
渡部 静香	川口高等学校 PTA 会長
坂内 忠義	会津農林高等学校 PTA 会長 (本校舎)
小池 玲	会津農林高等学校 PTA 会長 (耶麻校舎)
星 文彦	南会津高等学校 PTA 会長 (本校舎)
猪岐 優子	会津第二高等学校 PTA 会長

大会実行委員（総務・分科会会場）	
新國 郁美	会津工業高等学校健全育成委員長
金野 ゆかり	会津工業高等学校 PTA 副会長
土田 幸良	会津工業高等学校 PTA 担当
堀井 敦子	会津工業高等学校 PTA 担当
栗田 克志	会津工業高等学校 PTA 担当
高畑 利夫	会津工業高等学校 PTA 担当
高橋 完二	会津工業高等学校 PTA 担当
松本 博美	会津工業高等学校 PTA 担当

大会実行委員（庶務）	
柏木 登	会津西陵高等学校 PTA 副会長
滑川 裕亮	会津西陵高等学校 PTA 副会長
坂井 恵	会津西陵高等学校 PTA 健全育成委員長
野中 由美	会津西陵高等学校 PTA1 学年委員長

大会実行委員（受付）	
大澤 泰子	会津高等学校 PTA 総務委員
本名 良子	会津高等学校 PTA 進路対策委員
安藤 まり子	会津高等学校 PTA 健全育成委員
塚原 仁美	会津高等学校 PTA 調査広報委員
穴沢 英里香	会津高等学校 PTA 調査広報委員
鈴木 莊太郎	会津高等学校 PTA 監事
堀金 寿臣	葵高等学校 PTA 副会長
香坂 直行	葵高等学校 PTA 副会長

武富 美代	葵高等学校 PTA 進路対策委員
梅本 亜希子	葵高等学校 PTA 総務委員
浅井 かおり	葵高等学校 PTA 進路対策委員
遠藤 恵美	葵高等学校 PTA 進路対策委員
庄司 美里	葵高等学校 PTA 健全育成委員
東瀬 圭一	会津西陵高等学校 PTA 担当
若菜 睦	会津第二高等学校 PTA 担当
堀 伸人	会津第二高等学校 PTA 担当

大会実行委員（会場）	
齋藤 幸子	若松商業高等学校前 PTA 会長
星 道男	若松商業高等学校 PTA 会長
大堀 裕満	若松商業高等学校 PTA 総務委員長
大竹 美和子	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
佐藤 江美	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
大竹 めぐみ	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
星 幸代	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
川崎 聖	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
上野 香織	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員長
佐藤 充	若松商業高等学校 PTA 担当
添田 幹	若松商業高等学校 PTA 担当
酒井 崇敦	若松商業高等学校 PTA 総務委員
長谷部百合子	若松商業高等学校 PTA 総務委員
高久 恵美	若松商業高等学校 PTA 総務委員
星 行太	若松商業高等学校 PTA 総務委員
五十嵐 陽子	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員

大会実行委員（開会式表彰式）	
大島 ますみ	会津高等学校 PTA3 学年委員長
水科 かな枝	会津高等学校 PTA 健全育成委員
山口 ゆき	会津高等学校 PTA 調査広報委員
譲矢 尚武	会津高等学校 PTA 副会長
桑原 里美	会津高等学校 PTA 総務委員
山垣 睦	会津高等学校 PTA2 学年委員長
間島 志保	会津学鳳高等学校 PTA 副会長
永峯 秀明	会津学鳳高等学校 PTA 担当
平 香里	会津学鳳高等学校 PTA 監事
白川 雅也	会津学鳳高等学校 PTA 監事
折笠 弘一	会津学鳳高等学校 PTA 担当
内山 留美	会津学鳳高等学校 PTA 幹事

中山 拓也	会津学鳳高等学校 PTA 会長
石黒 心	会津学鳳高等学校 PTA 幹事
大竹 知恵子	会津学鳳高等学校 PTA 幹事
朱 茜娜	会津学鳳高等学校 PTA 幹事
武内 一恵	会津学鳳高等学校 PTA 幹事
原 義治	会津学鳳高等学校 PTA 担当

大会実行委員（祝電）	
鈴木 拓子	葵高等学校 PTA 会長
貝沼 十希子	葵高等学校 PTA 健全育成委員長
矢澤 敦	葵高等学校 PTA 担当
千代 弘美	葵高等学校 PTA 会員
大堀 喜代子	葵高等学校 PTA 総務委員
中川 弥生	葵高等学校 PTA 総務委員
渡邊 昌人	西会津高等学校 PTA 会長
高久田 唯	西会津高等学校 PTA 担当

大会実行委員（駐車場）	
石田 秀一	南会津高等学校 PTA 担当
平山 長一	南会津高等学校 PTA 担当
渡部 静香	川口高等学校 PTA 会長
鈴木 由貴	川口高等学校 PTA 副会長
星 勇輔	川口高等学校 PTA 担当
矢沢 悟	只見高等学校 PTA 会長
渋川 敦志	只見高等学校 PTA 担当
菅野 ななみ	只見高等学校 PTA 担当
齋藤 大和	只見高等学校 PTA 担当

大会実行委員（接待）	
伊藤 江里	喜多方高等学校 PTA 副会長
岩下 麻希	喜多方高等学校 PTA 監査
五十嵐 裕美	喜多方高等学校 PTA 監査
吉野 貴之	猪苗代高等学校 PTA 会長
佐藤 周	猪苗代高等学校 PTA 副会長
高橋 加奈	猪苗代高等学校 PTA 担当
長谷川 弘	会津農林高等学校 PTA 副会長
小池 玲	会津農林高等学校 PTA 副会長
秦 由紀子	会津農林高等学校 PTA 副会長

大会実行委員（生徒アトラクション）	
佐藤 孝樹	葵高等学校 PTA 担当
竹安 和明	葵高等学校ギターマンドリン部顧問
柴木 健一	葵高等学校前 PTA 会長
大会実行委員（講演会）	
高橋 力也	会津高等学校 PTA 副会長
島影 知恵	会津高等学校 PTA 総務委員
福島 健一	会津高等学校 PTA 担当

大会実行委員（教育懇談会）	
宮下 知子	喜多方桐桜高等学校 PTA 担当
渡邊 大輔	喜多方桐桜高等学校 PTA 会長
山本 啓司	喜多方桐桜高等学校 PTA 副会長
岩橋 亨	喜多方桐桜高等学校総務委員長
菊地 真	喜多方桐桜高等学校進路対策委員長
齋藤 美穂	喜多方桐桜高等学校 PTA 監事
白水 和也	喜多方桐桜高等学校 PTA 監事
平出 雅一	喜多方桐桜高等学校 PTA 担当
田中 広之	喜多方桐桜高等学校 PTA 幹事
大久保甚一	喜多方桐桜高等学校 PTA 担当

大会実行委員（救護・警備）	
柏木 登	会津西陵高等学校 PTA 副会長
滑川 裕亮	会津西陵高等学校 PTA 副会長
坂井 恵	会津西陵高等学校 PTA 健全育成委員長
野中 由美	会津西陵高等学校 PTA1 学年委員長
東瀬 圭一	会津西陵高等学校 PTA 担当
木村 哲也	会津西陵高等学校 PTA 担当

大会実行委員（記録）	
明間 正人	喜多方高等学校 PTA 会長
新明 篤史	喜多方高等学校 PTA 副会長
風間 聖	喜多方高等学校 PTA 副会長
小柴 知一	喜多方高等学校 PTA 担当
栗城 一郎	喜多方高等学校 PTA 担当
一ノ瀬 圭	喜多方高等学校 PTA 担当

大会実行委員（会計）	
高橋 完二	会津工業高等学校 PTA 担当

大会実行委員（会計監査）	
坂内 忠義	会津農林高等学校 PTA 会長
星 早苗	会津農林高等学校 PTA 担当
猪岐 優子	会津第二高等学校 PTA 会長
佐藤 繁	会津第二高等学校教頭

大会実行委員（分科会）	
第1分科会 司会◎ 記録○ 発表● 世話役△	
◎安部 耕一	会津西陵高等学校 PTA 会長
○須藤 聖一	会津農林高等学校 PTA 担当
○遠藤 里江	会津学鳳高等学校 PTA 副会長
●渡邊 忍	会津工業校 PTA 会長
△土田 幸良	会津工業校 PTA 担当
第2分科会 司会◎ 記録○ 発表● 世話役△	
◎大竹 康仁	会津農林高等学校 PTA 担当
○佐藤 繁	会津第二高等学校教頭
○折笠 郁	会津西陵高等学校
●上野 香織	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員長
△佐藤 江美	若松商業高等学校 PTA 進路対策委員
第3分科会 司会◎ 記録○ 発表● 世話役△	
◎芳賀美和子	会津学鳳高等学校 PTA 副会長
○遠藤 麻美	会津高等学校 PTA 進路対策委員
○小柴 知一	喜多方高等学校 PTA 担当
●渡部 みほ	葵高等学校 PTA 進路対策委員長
△永井 清和	葵高等学校 PTA 担当
第4分科会 司会◎ 記録○ 発表● 世話役△	
◎渡部 静香	川口高等学校 PTA 会長
○関本 和志	会津西陵高等学校 PTA 担当
○宮下 知子	喜多方桐桜高等学校 PTA 担当
●渡邊 昌人	西会津高等学校 PTA 会長
△高久田 唯	西会津高等学校 PTA 担当
第5分科会 司会◎ 記録○ 発表● 世話役△	
◎大島 智子	会津高等学校 PTA1 学年委員長
○渋谷 敦志	只見高等学校 PTA 担当
○菅野 ななみ	只見高等学校 PTA 担当
○齋藤 大和	只見高等学校 PTA 担当
○目黒 美晴	南会津高校（南郷校舎）PTA 副会長
○宮本 幸	南会津高校（南郷校舎）PTA 担当
●吉野 貴之	猪苗代高等学校 PTA 会長
△高橋 加奈	猪苗代高等学校 PTA 担当

# 講演会

【演題】 「落花生を使った幸せ地域づくり」

【講師】 松崎 健太郎 氏

## 《 プロフィール 》

1975年喜多方市生まれ。会津農林高校食品加工科卒業後、スパリゾートハワイアンズに勤務。

1997年「おくや」を創業。創業当初は、幅広く事業を手掛けてきたが、取引先の地元農家との交流を重ねる中で、かつての会津地域の名産品であった「豆」に着目。2004年より豆菓子の製造販売を専門的に手掛ける。2009年に「株式会社おくや」として法人化・代表取締役に就任。

2010年に会津地方の農家とともに「会津豆倶楽部」を立ち上げ、会津産落花生の契約栽培を展開。買い取り価格を固定価格とし、農家の経営安定を後押ししながら、加工品の製造・販売を強化。こうした取組が軌道に乗り始めたころ、東日本大震災・原発事故が発生。栽培を断念する農家が多い中で、諦めずに協力してくれる農家と共に栽培・加工を継続し、生産物の徹底した検査により安全性を確保。こうした堅実な取組が評判を呼び、県外からも商品購入希望が寄せられるようになる。2013年に、会津落花生の魅力を地元からPRするため、喜多方市中心部にピーナツ専門店「アイズピーナツマーケット」をオープン。豊富な種類の豆菓子の他にも、豆を用いたソフトクリームなど話題性のある商品を揃える。

2016年東北初となる、洗浄・選別・乾燥・焙煎まで一括で行える、ピーナツ一次加工所「アイズピーナツセンター」を開設。

2018年「商人の困ったをわくわくに変える御用聞きをします」をコンセプトに、個人・会社・社長・地域・地方の課題解決をする個人事業マツBOXを開業。

2020年4月に(株)おくやを退任し、新たに農業法人(株)オクヤピーナツジャパンを創業、認定農業者・代表取締役就任。2023年5月より、APJ株式会社に社名変更。

現在、APJ株式会社代表取締役、マツBOX代表の他、福島県中小企業同友会会津地区障がい者委員長、保護司、株式会社会津喜多方グローバル倶楽部取締役会長、会津喜多方観光物協会副会長、会津障がい者雇用促進連絡協議会副会長。また、「新商人五方良し」「農工商連携型6次化で地域を幸せにする」「自社の10年後を楽しく語れる経営者になろう」等のセミナーや講演も年間30本の依頼を受けている。



## 【講演】

### ● アイヅピーナツジャパン商い五方良し

#### 1 お客様良し

お客様に感動を与えられる商品・サービスをして「APJ感動ブランド」でお客様の幸せを追究する。

#### 2 お取引先良し

APJに係るお取引先にとっても、取引が喜ばしいと思ってもらえる関係になる。

#### 3 自社良し

商いとは利益の追求ではなく、感動の対価でちゃんとした報酬をもらえる仕組みを作ること。

#### 4 地域良し

地域農業・産業に貢献し地域が喜ぶ商いを考えていきましょう。

#### 5 社員良し

幸せな社員が幸せな会社をつくり、幸せな会社が地域を幸せにする。

### ● 幸せになれたおふくろのことば

「どんな小さな器でも、かまわんから、まず自分の器を水いっぱいにしなさい。そこから一滴でもこぼれた水は、惜しまず全て人にあげるんよ。決してこぼれた水まで貯えようなんて、がめつい人間になってはあかん。」

「人を幸せにするならまず自分が幸せになりなさい。」

・もし自分が幸せであることを伝えられる人がいたら、ぜひ伝えてほしい。

### ● なぜピーナツ作りを始めたか

菓子問屋のセミナーに参加した時、ある大阪の社長さんに言われます。

自分 「落花生の国産原料が手に入らないんですよ。何か良い方法ないですかね？」

大阪の社長さん 「そなん簡単ですよ。無いならあなたが作ったらよろしい。」

自分 「そっかあ。作ろう。」

- ・衝撃を受け、種を取り寄せ蒔いた。そんなことできないと考えなくて良かった。
- ・昭和50年から10年間位、会津で100町歩の落花生を生産していた。日本一に近い生産量だったが、関東で加工され千葉県産として販売されていたため、あまり知られていない。40年前から会津産として売っていただくと考えると悔しい気持ちもするが、これから40年かかっても良いかなと思う。また地域資源の再生にもなっているかな。
- ・手に入りにくい食材作りは面白い。ライバルも少ない。(ビジネス用語でブルーオーシャンと言われる。)

## ● 農業に感じる可能性

・一昨年4月より、原産地表示が義務化された。加工メーカーが国産材料を求めるようになるだろう。現在、北海道に集中して、多くの原材料が生産されているが、台風が北海道に来る時代でもある。北海道が不作になったときのリスクを避けるためには、他地域での空き農地を活用して生産する必要がある。一次産業のチャンスであり、東北がこれからの日本の食を支えることになるのでは。

・農工商連携型6次化について（スライドで味噌の例などの説明がありました。）



## ● 地域資源について

～ピーナツを自分で作ることになる質問より前に～

ある大阪の社長さん 「会津には資源がありますかあ～。」

20代の自分 「ん～何もないですねえ～。」

ある大阪の社長さん 「かわいそうですのお～。会津には豊かな土があって、水があって、観光地ですよ。歴史もあって、おいしい野菜や食べ物があって、温泉もある。そこで何もないと言ったらどこに行っても商いはできませんわなあ～。」

・何もないと言ってしまった自分が恥ずかしくて、ここから地域資源について考えるようになった。

・空き農地、空き商店街、空き家。空きは資源に変わる。空き農地に落花生を植えて、落花生からアイスクリームができる。空き商店街にカフェを含む3店舗が同時にオープンしたら資源に変わる。（白河市の南湖公園）空き家も悲観しないで資源にすることを考える。

・資源×資源を考える。（たんさんの例がスライドで紹介されました。）

## ● 最後に

子どもたちに必ず伝えていること。

・世界は今小さくなっている。交通機関の発達により、24時間で南極に到着できるほど、時間的距離が短くなっている

・みんなの時代は生き方を選べる時代。日本の人口は減っているが、世界の人口は増えている。縮小マーケットで心豊かに過ごすこともできるし、拡大マーケットで挑戦することもできる。

# 分科会



第1分科会 総務委員会



第2分科会 進路対策委員会 就職



第3分科会 進路対策委員会 進学



第4分科会 健全育成委員会



第5分科会 調査広報委員会

## 第1分科会 総務委員会

発表者	会津工業高等学校 P T A会長（5年度） 「会津工業 ペーパーレス化に向けて」	渡邊 忍
発表者	いわき光洋高等学校 P T A会長 「これからの高等学校でのP T Aの役割とは？」	山崎 建見
司会	会津西陵高等学校 P T A会長	安部 耕一
指導助言者	福島県教育庁社会教育課 主任社会教育主事	野口 幸哉
記録	会津農林高等学校 P T A担当 会津学鳳高等学校 P T A副会長	須藤 聖一 遠藤 里江

### ●「会津工業 ペーパーレス化にむけて」

会津工業高等学校 P T A会長 渡邊 忍

#### 1 発表概要

テクノロジーの学校としてペーパーレス化にむけて進めてきた。道半ばであり様々な問題がある中で、皆様から意見をいただいている。

##### (1) 本校の概要

建築インテリア科、セラミック化学科、機械科、電気情報科の4学科5クラス、生徒数は585名である。明治35年創立。県内では一番古い実業高校であるが、地元就職という時代は終わっており、ひと学年200名のうち半分くらいは地元を離れ進学してしまう。ひと学年あたり20名ほどしか地元に戻ってこない。

##### (2) P T A活動について

- ①健全育成委員会：年に5回あいさつ活動を実施している。そのうち年1回校内巡回を実施している。生徒たちのあいさつはきちんとしている。
- ②進路対策委員会：保護者対象の企業見学会、大学見学会を実施している。保護者から職場の様子がわかり、多くの保護者に活用してもらえば進路の幅も広がる。
- ③調査広報委員会：広報誌の編集を行っている。広報誌コンクールでは今年度は優秀賞にはならなかったが今年度は最優秀をめざしたい。

令和3年度に開催された3年に1度の文化祭にはP T Aも参加した。地元の企業からレーザー彫刻機を提供していただきレーザー彫刻体験で700個作った。おもて面は2021文化祭として統一したもので、うら面に自分の好きな文字をいれ、世界に1つのスプーンをつくり全生徒に記念として配付した。

##### (3) ペーパーレス化にむけて

###### 1) 動機

- ①資源を大切にするという意味もちろんあるが、P T A関係の先生方の仕事が増えてしまうことを何とかしたいということから始まっている。
- ②経費削減の点では、令和3年度の試算で年間で約23,000枚の紙が節約でき、約7万円前後の節約となる。

###### 2) 概要

保護者への連絡手段としてはHPや一斉メールサービスがあるが、そのほかに保護

者からの連絡に使用するプラットフォームとして欠席連絡の会工ポータル、Classi、Melly or kintoneを導入している。

### 3) 問題点

生徒を介さないでできるのでメリットであるがデメリットでもある。生徒が提出物の管理する能力を奪ってしまうという意見もあったが、全く届かないというリスクのほうが大きい。

## 2 質疑応答

質問：一斉メール活用をすれば事足りると思うが、一斉メールで足りないことはなにか。

回答：紙との併用だと、一斉メールを送ることそのものが手間を増やすことになる。そこで現状を改めようとしているところである。

質問：ペーパーレス化について、マニュアルを作るなどして続けることも同時に考えているか。

回答：ITが得意でも不得意でも引き継げるように運用していくつもりである。

## ● 「これからの高等学校でのPTAの役割とは？」

いわき光洋高等学校 PTA会長 山崎 建見

### 1 発表概要

#### (1) 学校の概要

- ①放送委員が作製した動画で学校の施設等を紹介。この放送委員は毎年NHKコンクールで優秀な成績を収めている。
- ②「自主」「自学」「自律」の三自の精神を校訓とする全国で初めての全日制の単位制高校である。2年次より文系、理系、芸術系にわかれ、生徒の目標に合ったカリキュラムを運用している。
- ③卒業後の進路は192名中136名が大学進学である。

#### (2) PTA活動について

- ①4月上旬にPTA入会式、下旬にPTA総会。10月・11月には登校時あいさつ活動。PTA広報「光洋」を年2回発行している。
- ②10月にはPTAによる奉仕活動として、40名くらいの参加で、法面の草刈や校舎の窓ふきなどをやっている。委員会はどこも同じだと思うが総務委員会、進路対策委員会、調査広報委員会、健全育成委員会、各学年の委員会がある。

#### (3) PTA活動の課題

- ①PTA活動への参加者が減少していること。原因としては、子供の人口の減少、小中学校でのPTA活動に参加する人数の減少がある。
- ②2020年からの新型コロナウイルスのことで、小中学校でのPTA活動が2年間できず活動がわからない。先生方も引継ぎが全くされていない状況のまま翌年を迎えてきた。活動を知らない保護者が増え、一部の保護者に仕事が集中してくるという状況がある。

## 2 班ごと討論会

参加者が4つの班に分かれ「PTA活動は何か」について15分ほど話し合い、代表が発表した。大学の選択の時期、受験校の数など生の声を聞く機会がある点や教員の生の声が聞くことができる点でPTA活動は重要であるという意見があった。また、PTA活動の参加者を増やしていくことが必要だという意見があった。

### ●指導助言

福島県教育庁社会教育課 主任社会教育主事 野口 幸哉

- ①会津工業高校さんのペーパーレス化ですが SDGs の観点からペーパーレス化は学校のみならず社会全体で取り組んでいることの1つである。
- ②発信する際、パソコンやタブレット、スマホによってPDFなどは拡大しないと見えない場合があるので、受け取り側に対しても配慮しなくてはならない。
- ③アンケートなどは回収、集計を考えると google などを利用したほうが便利。また家庭訪問や三者面談のなどの日程調整はメールでやった方がよい。
- ④持続可能性について、短期的な利便性と長期的なことのバランスを考えなくてはならない。
- ⑤目の前の子供たちに大人として何かしてあげたいなという気持ちはどんな立場であっても共通であると思う。せっかくPTA活動をしているのでやって良かったというような活動にしていだけたらと思う。
- ⑥PTAの大切な役割のなかで地域と学校をむすんでいる大切な役割がある。OB、OGとのつながりも大切である。
- ⑦取り組みの「正解」はない場合がある。お互いに対話して「最適な答え」に近づいていくことが大切である。グループ対話は大きな成果が期待される。
- ⑧気軽に話ができる茶飲みスペースのような場があると良い。気軽な会話から多様なアイデアが生まれる。
- ⑨PTA表彰には是非とも応募していただきたい。PTA活動の励みになればありがたい。

## 第2分科会 進路対策委員会 就職

発表者	若松商業高等学校 P T A進路対策委員長 「進路対策委員会（就職）の取り組み」	上野 香織 佐藤 江美
発表者	小高産業技術高等学校 P T A会長 「令和5年度の就職状況と進路対策委員会の活動内容について」	古山 珠美
司会	会津農林高等学校（耶麻校舎）P T A担当	大竹 康仁
指導助言者	福島県教育庁高校教育課 指導主事	佐藤 貴之
記録者	会津西陵高等学校 P T A担当 会津第二高等学校 教頭	折笠 郁 佐藤 繁

### ●「進路対策委員会（就職）の取り組み」

若松商業高等学校 P T A進路対策委員長 上野 香織  
P T A進路対策委員 佐藤 江美

#### 1 発表概要

##### (1) 本校の概要

1912年若松市立若松商業高校として創立。1948年学制改革により福島県立若松商業高等学校に改称。現在は会計ビジネス科（2クラス）、情報ビジネス科（2クラス）の2科編成。在籍生徒数470人。簿記、実務会計、ITパスポートなどの専門的な資格取得を目指している。特徴的な学校行事としては12月の若商デパート株主総会と1月の十日市の出店がある。今年の十日市の収益は全額、能登半島地震支援として寄付した。

##### (2) 本校の進路指導について

進路としては、大学・短大進学と専門・その他の学校進学と就職で3分の1ずつの割合。就職先は地元の企業が多くなっている。進路対策委員会の活動としては1年次より職業人講話を実施し、早い段階から進路選択について考える機会を設け、進路について意識を高めるような活動を目指している。講演の事前と事後にアンケートを実施し、生徒の意識の変化や満足度を調査した。保護者にも参加を呼び掛けたが参加人数は10名弱に留まり、今後の検討課題である。

##### (3) まとめと今後の課題

職業人講話と進路別講演会を通じ、生徒の進路についての意識を高める活動を継続したい。アンケートの結果から、進路に対して不安や悩みを持つ生徒が半数以上いることが分かったので、何に悩み、何が不安かを聴きだし、解消・軽減していく方法を学校と保護者で情報共有し考察して行きたい。保護者の進路に対する思いも聞き、1年生の時期から子どもと一緒に進路について考える時間を作るきっかけとなるような活動を継続して行きたい

## 2 質疑応答

意見：若松商業高校 P T A

進路講演会の講師の言葉で「誰もが好きな職業に就けるわけではない」というのに共感できた。どういう進路を選ぶかの前に、子ども自身がどういう未来を描きたいのか、自分はどのような人間かを知ることが大事だと思う。今後の委員会活動にも生かしていきたい。

質問：小高産業技術高校 校長

資格取得（学業）と部活の両立は大変なことだと思う。生徒としても究極の選択になってくると思うが、保護者としてはどちらを優先させて欲しいと思っているのか伺いたい。

回答：若松商業高校 進路対策委員長

個人的な意見としては、資格取得の結果に拘らず部活も一所懸命にやりつつ資格取得という目標に向かう姿勢が大切だと思っている。ただ進学先によっては資格取得が有利になることもあるので、子どもたち同士で悩みを共有しつつ励まし合っているようである。

回答：若松商業高校 P T A会長

若商的には文武両道を目指して欲しい。私の息子も部活を頑張りながら資格取得に挑戦し、合格した時は非常に喜び満足感と達成感を得ることができていた。この経験が次のステップに繋がる力になると思う。社会に出たら途中の努力より結果で判断されるということも話しながら、日々の努力を続けるよう励ましている。

意見：相馬総合高校 校長

進路講演会で事前アンケートを取っているというのが興味深かった。事前と事後の結果を比較して生徒の気持ちの変化が見て取れて、非常に面白い取り組みだと思う。この結果を分析することで講演会の内容の評価や生徒の進路選択の役に立つのではないかと感じた。今後も続けて欲しい。我々も参考にしたい。

質問：会津第二高校 教員

進学希望の生徒に対する講演会や指導などはどのようにしているか伺いたい。

回答：若松商業高校 教員

ライセンスアカデミーに依頼し、生徒の興味のある分野別に講話を聴く機会を設けている。

● 「令和5年度の就職状況と進路対策委員会の活動状況について」

小高産業技術高等学校 P T A 会長 古山 珠美  
同 進路対策委員長 蒔田 淳一

1 発表概要

10年前と比較して、南相馬市の人口も減っているが、特に小高区の人口は半減しており、若者の流出が多い。

小高産業技術高等学校は平成29年に旧小高商業高と旧小高工業高が統合して1学年6クラス体制でスタートしたが、令和6年度の学科改編により、4クラス体制となった。職業人材育成を目的として、文科省指定のマイスター・ハイスクール事業に令和3～5年度の3年間指定を受けた。

事業の効果として、上級学校への進学も増加し、課題発見・解決に対する生徒の能力の向上から、離職率の低下が期待される。今後の課題として地元企業の P R と地元企業との連携の継続が考えられる。

2 質疑応答

質問：平工業高校 P T A 会長

地域企業との連携は1～3年全学科なのか？

回答：小高産業技術高校 校長

マイスター・ハイスクールとして、1・2年生は企業見学をして、3年生の課題研究で、3年生のみに地元の企業から講師を派遣いただいている。イノベーション構想もマイスターハイスクールに取り込みながらの活動である。

感想：二本松実業高校 P T A 会長

コースを跨いでやっているのが良いと思った。

質問：若松商業高校 進路対策委員

地元企業はどのような感じか？

回答：小高産業技術高校 校長

地域性として、相双地区は災害復興費が潤沢である。就職する上でもバブル期のような売り手市場があるので、遠くまで就職のために行く必要が無い。会津地区は地元にとどまる数が少ないのも、就職のために他の地区に行く必要があるからである。電気工事士の資格も、地元企業の社長が講師として、生徒を指導しているため、全国では49%くらいの合格率だが、本校は96%となっており、地元での好循環となっている。

質問：平工業高校 P T A 会長

地元の講師への給料はどうしているのか？

回答：小高産業技術高校 校長

マイスター・ハイスクール事業の予算があった。東北では本校のみの指定である。15名の講師がおり、時給対応である。

## ●指導助言

福島県教育庁高校教育課 指導主事 佐藤 貴之

### ・若松商業高校について

学校の教育目標の中の2つ「高い志を持つこと」「社会人として必要な資質を高めること」から進路対策委員の活動をスタートしているということで、資格指導を通してキャリア教育を推進していく活動に繋がっている。文科省の目指すキャリア教育とも合致した取り組みと言える。また、1年生の早い段階から進路意識を高める取り組みをされていた。キャリアを育てるには積み重ねが大切である。学年に応じた内容や個人の特性や発達段階に応じた適正なキャリア教育が3年生になった時に重要になってくる。保護者と情報共有出来ている点も素晴らしいと思う。最後に課題として半数の子ども達が進路実現について悩みを持っているということを挙げていた。今後の取り組みに期待したい。

### ・小高産業技術高校について

全国で15校しかないマイスターハイスクールの素晴らしい取り組みについての発表ありがとうございました。4C+1と6つの分野の取り組みが地域を支え、自ら設定した課題を解決するために生徒同士の協働や他の学科や外部団体との連携などの様々な学びの場を通して人間が成長していく取り組みになっていた。進路対策委員の取り組みの中で、3年生の企業説明会に保護者も一緒に参加することで生徒の悩みを共有して、生徒に寄り添った進路活動になっていると思う。

・子ども達は進路決定をすることについて、漠然とした不安や悩みを持っている。情報が溢れている現代で職業決定するのは困難。2022年の厚労省のデータによると18728の職業があるとされる。18歳の子どもが、ここから一つを選ぶということに不安を持つことは当然なので、是非保護者の方は不安や悩みを聞いてもらいたい。デジタル産業の普及で社会の変化が急速になっている。第7次福島県総合教育計画にも育成したい人間像として「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人」とある。私たちも学校と共に子どもたちを励まし育てて行きたい。今後ともご協力をお願いしたい。

最後に就職の現状について説明する。R6.3月の県内の卒業生の就職率は99.9%。福島県ではH27から99%を維持している。全国ではR6は98%であり、福島県としてはH27以前より全国を上回る高い就職率をキープしている。進路実現のためには学校と保護者の支援が不可欠である。今後も継続した活動をお願いしたい。

### 第3分科会 進路対策委員会 進学

発表者	葵高等学校 P T A進路対策委員長 「“新”葵の進路対策～私の選択には意思がある～」	渡部 みほ
発表者	郡山東高等学校 P T A会長 「生徒の夢の実現を目指して」	相馬 雅彦
司会	会津学鳳高等学校 P T A副会長	芳賀美和子
指導助言者	福島県教育庁高校教育課 指導主事	梶川 光生
記録	会津高等学校 P T A進路対策委員長	遠藤 麻美
記録	喜多方高等学校 P T A担当	小柴 知一

#### ●葵高等学校 「“新”葵の進路対策～私の選択には意思がある～」

葵高等学校 P T A進路対策委員長 渡部 みほ

##### 1 発表概要

###### (0)葵の沿革

前身は旧会津女子高等学校として創設され、平成14年の男女共学化に伴い葵高等学校と改称、創立115年を誇る。葵の校名には、前身校からの高貴な美しさ・平安と、会津の市花・立葵の意味が込められている。校内には新島八重の写真と書が残されている。

###### (1)葵の現状

令和3年度卒業生から5クラス編成となる。生徒+先生+親がうまく連携し、高い大学進学率を維持している。

###### (2-1)葵の改革(改革前)

各学年、年1回開催している進路講演会では、事後アンケートを活用し、年々改善を模索してきた。

###### (2-2)葵の改革(分析)

事後アンケートでの高評価な点を次年度に引継ぎ、駐車場・トイレの確保、開催時期などの今後への要望をかなえるべく思案をめぐらす。

###### (2-3)葵の改革(試行)

会場を変更し、1家族1名で保護者進路講演会を開催。人数が大幅に増え、保護者の子どもたちの将来への関心の高まりにも対応できた。

###### (2-4)葵の改革(本格化)

進路講演会の仕様を見直し、受験生を持つ親には不安を軽減すべく保護者参加型の座談会を8分割で実施。1・2年生の保護者には、学校側より受験のしくみや進路実績について説明を強化した。

### (3) 葵の未来

葵高の進路対策は、SDGsの考えに基づき、ペーパーレスや、県の補助金などを活用して経費は必要などところかけ無駄を考えうる限り省いて、サステナブルな家計にも優しい、子どもたちの希望に沿った進路対策を推進していく。

## 2 質疑応答

質問：令和4年の国公立合格者が突出している理由があればお聞かせください。

回答：学年により生徒の学力が異なるのはどちらの学校でもあることと思うが、これと  
いって挙げるならば、学年主任が英語担当だったということもあり、英語の強化  
がうまくいったことが第一の理由になると思う。令和5年は、英語が伸ばしきれ  
なかったことがあるかもしれないが、一般選抜の合格者は変わらない点をご承知  
おき願いたい。我が校は探究活動を掘り下げていて、この影響でGMARCHを  
志望する生徒が多かったという学年の差が濃厚に出た結果といえると思う。

質問：進路講演会開催時の駐車場が改善されたとあったが、具体的に教えてほしい。

回答：駐車場のある会場を借りた。

質問：座談会の内容を教えてほしい。

回答：座談会は講演会と同日開催であるが、3年生の講演会案内時に進路希望を取り、  
進路別に、人文・教育・理工・公務員・就職などに分けて意見交換をしてもらって  
いる。長兄姉を持つ保護者と、次弟妹の保護者(受験経験者)を混ぜてスムーズに  
話が流れるようにしている。

## ● 生徒の夢の実現を目指して

郡山東高等学校 P T A会長 相馬 雅彦

### 1 発表概要

#### (1) 郡山東高校の紹介

##### ① 校訓「学べ、創れ、生きよ」

創立70周年関連事業の一環として制定された。

「ひろい心、すこやかな体、ゆたかな想像力」を身につけ、「自由・自律と公共の  
精神」を養い、「世界の中の日本人」として活躍できる、21世紀を生きる人間像  
を表している。

##### ② 沿革

- ・大正12年 郡山実践女学校として誕生
- ・大正15年 郡山市立淑徳女学校と改称
- ・昭和23年 郡山女子高等学校と改称(普通科、家政科、保育科の設置)
- ・平成10年 郡山東高等学校と改称(普通科、男女共学となる)

③ 経営・運営ビジョン（学校の進路対策）

○進学指導重点校として

各分野のリーダーとして活躍し、社会の発展に貢献できる人材を育成する。

- ・個に応じた、きめ細やかな指導による進路指導

⇒ 令和5年度82%が大学・短大に進学。国立大43名、公立大22名、私立大271名、短期大学26名合格。

- ・探究活動にて学びたい分野から大学進学につなげる

- ・授業のICT化の推進と英語4技能の向上

⇒ 教室へのWi-Fi、プロジェクタ整備。パワーポイント、タブレットによる授業実施

⇒ 英語検定 今春卒業生 準2級以上204名合格（2級31名、準1級2名）

- ・未来を見据えて社会貢献できる人材の育成

(2) 郡山東高校のPTA活動

① 令和5年度PTA活動方針

○生徒の夢の実現を目指して

- ・家庭、学校及び社会における生徒の福祉を増進し会員相互の教養を高める。
- ・家庭と学校の間を一層密にし、生徒の指導について父母と教師が協力する。
- ・学校の教育的環境の整備を図る。

② 具体的PTA活動

(ア) PTA要望書「生徒の夢の実現を目指して」提出

経営運営ビジョンの確実な実施と評価・見直し

※PTAが経営運営ビジョンの実現に積極的に学校との協力体制をつくっていく

(イ) 新たなチャレンジ

- ・負担にならない範囲での全員参加の楽しい活動

グループラインへの自由参加。挨拶運動・お祭り補導への自由参加。生徒進路指導行事への自由参加。各種PTA連合会大会への自由参加。

※委員会別に行われていた行事に他の委員会や役員の参加を呼びかけPTA役員・委員の意識向上をはかった。

- ・PTA役員と生徒会役員の懇談の実施

・「PDCAを回転させよう」P(plan 計画)D(do 実行)C(chek 評価)A(action 対策・改善)

第1回評議員会 ⇒ 年間計画の協議・報告

第2回評議員会 ⇒ 実施状況の中間報告と協議

第3回評議員会 ⇒ 実施状況のチェックと評価

第4回評議員会 ⇒ 年間計画・PTA規約の見直し協議

※見直しが必要な場合、PTA評議員会にて協議を行った。

### (3) 進路対策委員会の活動

P T A進路対策委員会の開催

#### ① 第1回進路対策委員会(年間計画の協議)

大学見学会の実施について(大学側が対応できないため、昨年度は見送り)  
生徒向け講演会等へのP T A参加の呼びかけ

⇒ 先輩講話、進路講演会、大学講師による分野別講義、合格者体験発表会など  
全6回を計画、実施。

#### ② 第2回進路対策委員会は書面にて確認

#### ③ 学年委員会(学年別保護者会の開催)

・6月10日 1・2学年開催(午前:進路講演会 午後:学校からの全体説明)

・6月25日 3学年開催(P T A学年委員長による講演会)

### (4) 今後の課題

生徒のニーズに応える進路対策委員会の活動

#### ① 学校評価アンケートの有効活用

⇒ 進路対策活動ニーズの聞き取り

⇒ 協働による進路対策活動の開拓

#### ② 進路対策委員会のP D C A展開活用

⇒ 活動のフィードバックと評価・ブラッシュアップ

#### ③ 地方創生の中心的リーダーの育成

⇒ 高校生活を楽しく友人と切磋琢磨できる環境整備

## 2 質疑応答: 特になし

## ● 指導助言

進路実現のために「第11回『高校生と保護者の進路に関する意識調査』2023  
報告書」から見えてくること

福島県教育庁高校教育課 指導主事 梶川 光生

### 1 進路選択における親子コミュニケーションの実態

#### (1) 保護者がよく使う言葉

##### ① 進路の話をするときに高校生が保護者によく言われる言葉

(複数回答 進学者希望者全体に占める割合 %)

第1位 自分の好きなことをしなさい

やりたいことをやりなさい (進学全体 59.7 大学 58.9 短大 56.8 専門 64.7)

第2位 自分でよく考えなさい (進学全体 30.6 大学 37.7 短大 40.5 専門 30.6)

第3位 勉強しなさい (進学全体 35.1 大学 36.1 短大 37.9 専門 29.7)

第4位 自分で決めなさい (進学全体 29.0 大学 29.0 短大 40.5 専門 27.6)

全体の傾向としては、好きなことややりたいことを追究することを勧められていることが多く、自分の考えで決めるよう促されている傾向が読み取れる。校種別に見ると、短大希望者は自分で決定することを促されている割合が高く、専門学校希望者は好きなことを追究することを勧められている割合が高い。

##### ② 進路の話をするときに保護者がよく使う言葉

(複数回答 進学者希望者全体に占める割合 %)

第1位 自分の好きなことをしなさい

やりたいことをやりなさい (進学全体 65.3 大学 66.0 短大 75.0 専門 57.4)

第2位 自分でよく考えなさい (進学全体 50.1 大学 51.8 短大 45.8 専門 38.0)

第3位 自分で決めなさい (進学全体 27.9 大学 28.6 短大 33.3 専門 21.3)

第4位 資格取得を目指しなさい (進学全体 27.7 大学 23.2 短大 70.8 専門 51.9)

「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」が多いことは高校生の結果と同じであるが、保護者の方が「自分でよく考えなさい」の割合が高い。また、保護者のアンケートでは「勉強しなさい」は第6位で、それよりも「資格取得を目指しなさい」が多いが、高校生は「勉強しなさい」の方が言われているという感覚を持っていることが分かる。校種別では短大や専門学校で「資格取得を目指しなさい」が多く、保護者の意識が読みとれる。過去の結果と比較すると「資格取得を目指しなさい」は低下傾向にある。

## (2) 保護者からのアドバイス

### ① 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか

(単一回答 進学希望者全体に占める割合 %)

非常に難しい	(進学全体 20.3 大学 21.3 短大 20.3 専門 13.0)
やや難しい	(進学全体 54.9 大学 56.6 短大 50.0 専門 43.5)
難しいとは思っていない	(進学全体 24.1 大学 21.4 短大 29.2 専門 43.5)

全体の傾向としては75.2%が難しさを感じていることがわかる。校種別でみると、専門学校は難しさを感じている保護者が少ない傾向にある。

### ② アドバイスを難しいと感じる要因

(複数回答 進学者希望者全体に占める割合割合 %)

第1位	<u>入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから</u>	(進学全体 55.4 大学 57.8 短大 70.6 専門 26.2)
第2位	<u>社会がどのようにになっていくのか予想がつかないから</u>	(進学全体 42.7 大学 43.6 短大 41.2 専門 32.8)
第3位	子どもにアドバイスできるほど、 <u>自分の生き方に自信がないから</u>	(進学全体 24.3 大学 24.5 短大 35.2 専門 19.7)
第4位	子どもの人生を決めてしまうような <u>アドバイスをするのは気が引けるから</u>	(進学全体 22.7 大学 22.9 短大 17.6 専門 21.3)

最新の進路情報を知らないことと社会がどうなっていくのか予想がつかないといった保護者の外的要因と、保護者の心理といった内的要因が続く傾向である。校種別では短大希望の保護者で進路情報を知らないということを要因としている割合が非常に高い。一方で専門学校はアドバイスそのものに難しさを感じていないため全体的に低めである。

## 2 アドバイスが難しい外的要因について考える

### (1) 入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから

→ 進路講演会やインターネットで最新の入試情報を得ることができる

①大学入試共通テストの概況 ②国公立大学の志願状況 ③私立大学の志願状況

### (2) 社会がどのようになっていくのか予想がつかないから

→ 正解のないもののアドバイスに正解はない

子どもにたちはVUCA(ブーカ)時代を生きる

V (Volatility) 変動性 U (Uncertainty) 不確実性 C (Complexity) 複雑性

A (Ambiguity) 曖昧性

### 3 進路実現のために必要なこと

どのように生きるか ← 上級学校での学び ← 高校での学び ← 今何をするのか

#### (1) 生徒について

自己理解、主体的・対話的で深い学び、確かな知識の獲得、思考力・判断力・表現力の育成進路情報の収集

#### (2) 教員について

生徒理解に基づく個に応じた指導、学びの変革の一層の推進、進路実現に関する情報提供

#### (3) 保護者について

子どもの気持ちの理解、学校への理解と協力、進路情報の収集、必要な資金の準備

保護者と教員が連携し、共通理解を図った上で子どもに働きかけ、生徒の個性や希望を最大限叶えることのできる進路指導を展開する。

## 第4分科会 健全育成委員会

発表者	西会津高等学校 P T A会長（5年度） 「P T A活動の取り組み」	渡邊 昌人
発表者	安達高等学校 P T A会長 「二本松の歴史や文化とともに」～更なる100年を目指して	大河内 威
司会	川口高等学校 P T A会長	渡部 静香
指導助言者	福島県教育庁高校教育課 指導主事	江川 篤
記録	会津西陵高等学校 P T A担当	関本 和志
記録	喜多方桐桜高等学校 P T A担当	宮下 知子

### ●西会津高等学校「P T A活動の取り組み」

西会津高等学校 P T A会長 渡邊 昌人

#### 1 発表概要

##### (1) 本校の概要

全校生徒数39名。先輩・後輩の上下関係なく全校生仲良く生活している。全国大会へ出場しているボート部をはじめ、各部活動も活発に活動している。自然豊かな環境の中、学校の周囲も静かで、生徒が落ち着いて学べる環境がある。

##### (2) P T A活動の概要

P T Aも小規模であるが、学校行事に保護者や地域の人たちが参加するなど連携して、子どもたちの健全育成のために活動している。

～活動例～

- ・保護者参加型の課外授業「歩く・学ぶ・西会津」
- ・あいさつ登校指導…夏休み明けに実施
- ・地域の人たちとの交流「西会津大山さゆり太鼓」「ゲートボール大会」  
「地域の小学生と連携した農業体験」
- ・公開文化祭への保護者参加（受付係補助、展示等の実施）

#### 2 質疑応答

質問：町内の小学校や中学校の人数はどうか。また、少人数の中でP T Aの組織編成は大変ではないか。

回答：小学校、中学校とも学年1クラスである。高校は、町外から生徒も入学するが、その数は少ない。P T Aの組織編成は、男性の保護者も積極的に参加している。

質問：委員会の組織はどのようになっているのか。

回答：入学後、新入生の保護者全員が「総務・進路対策・健全育成・調査広報」の4つの委員会のどれに所属するかを決めて、決めた委員で3年間活動している。集まる回数を減らしたりして負担を軽減できるようにしている。

質問：町や地域との連携はどのようになっているのか。

回答：昨年度まで、学校に地域おこし協力隊員が常駐して町との折衝などを担当していた。今年度は隊員が常駐していないので、どのように継続していくかが今後の課題である。

●安達高等学校「二本松の歴史や文化とともに～更なる100年を目指して～」  
安達高等学校 PTA会長 大河内 威

1 発表概要

(1) 本校の概要

全校生徒数445名(3学年×4クラス)。卒業生は3万人以上で、「三顧の松」がある前庭は学校を象徴するものである。「まゆみの精神」を継承し、文武両道に励む歴史ある学校である。昨年度100周年を迎えた。

(2) PTA健全育成委員会活動の概要

「すべての生徒の生活の保全と情緒の安定を図り、一人ひとりの個性と発達段階に応じ、健やかな学校生活を育めるよう支援する」を活動目標理念とし、委員会の招集開催(年2回)、登校時における安全一斉指導(年3回)、提灯祭り補導(開催期間中2日)の活動をしている。

(3) PTA健全育成委員会活動のこれからの課題

- コロナ禍が明けて再開したお祭り(市内の学校では、巡回をやめた学校もある)
- 文化の継承を見守る育成事業の在り方
- 地元の催事に生徒が参加することの意味合い

2 質疑応答

特になし

●指導助言

福島県教育庁高校教育課 指導主事 江川 篤

現在、生徒を取り巻く状況が変わり、生徒の問題行動も変わってきている。生徒の問題行動は、昔は目に見えるものだったが、現在はSNS等ネット上で起こることが多く、わかりづらいものになっている。中には命の危険にかかわるものもある。現在の問題行動の解消のためには、生徒の居場所づくりが大切である。

西会津高校は、小規模校だが、町と連携するなど、地域と連携した取り組みが素晴らしい。

安達高校は、文武両道の地域の伝統校として、地域に必要とされている学校であり、これも地道なPTA活動の賜物だと思われる。

あいさつ運動は、各校、参加する保護者の減少が課題である。保護者が参加することの目的は生徒指導ではなく、保護者が運動に参加すること自体に意義がある。これらもふまえ、あいさつ運動の在り方については各校で検討の余地があると思われる。

祭礼補導は、廃止している学校も多いが、補導ではなく、生徒が商品開発したものを出店するなどして参加することで地域とのつながりを維持する方法もある。

学校と地域との密接した関わりには、PTAの活動が重要である。

## 第5分科会 調査広報委員会

発表者	猪苗代高等学校 P T A会長 「小規模校における広報活動のあり方」	吉野 貴之
発表者	平商業高等学校 P T A副会長 「P T A会報作り」について	鈴木 達也
司会	会津高等学校 P T A 1 学年委員長	大島 智子
指導助言者	福島県教育庁社会教育課 社会教育主事	舘 純平
記録者	只見高等学校 P T A担当	渋川 敦志 菅野ななみ 齋藤 大和
	南会津高等学校 P T A副会長 P T A担当	目黒 美晴 宮本 幸

### ● 「小規模校における広報活動のあり方」

猪苗代高等学校 P T A会長 吉野 貴之

#### 1 発表概要

##### (1) 本校の概要

1948年創立。普通科、家政科、農業科、国際観光科、観光ビジネス科と、時代の変遷の中で地域の需要に応じた科が設けられ、多くの生徒を送り出してきた。現在は普通科、1学年1クラス3学級である。「英知」「忍耐」「勤労」を校訓とし、豊かな自然と文化に恵まれた環境の中で地域を愛し、地域・社会の課題解決に取り組む人材の育成に努めている。令和3年度より地域と連携・協働して教育活動の充実や地域・社会に貢献できる人材の育成を目指す地域協働推進校（コミュニティ・スクール）に指定された。これに伴い、保護者や地域住民等を委員とする学校運営協議会を設置し、年間を通して学校運営について協議できる機会を設けている。

##### (2) 本校の現状と特色

全校生が56名と小規模である。少人数という利点を生かし、一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな指導に力を入れている。また、本校の特色ある教育活動のひとつに「猪苗代学」と称した地域探究学習が挙げられる。猪苗代町を中心に地域を学びのフィールドとし、「観光・農業・防災」をテーマに地域の課題を自ら考え、その解決のため、仲間や地域の人々との体験的な学びから生きた学力を養うため様々な活動を行っている。

##### (3) P T A活動の現状

本校は保護者全員が、本部役員又は4つの委員会のいずれかに必ず所属し活動している。また年間を通して様々な学校行事にも積極的に参加している。球技大会では保護者と教員がチームを組んで参加し、磐梯登山では保護者有志が生徒とともに登る。文化祭や体育祭では豚汁の炊き出しで生徒たちのサポートをする。進路関係では上級学校や企業を見学し、

健全育成では地元の祭りにおける補導活動や、県下一斉服装指導に合わせた登校指導など実施している。どの活動も10名以上の参加があり、積極的に活動している。

#### (4) 本校の広報活動について

本校では、卒業式の日調査広報委員会作成の「PTA会報」を発行している。調査広報委員と担当教員で内容・構成を検討し、A4、12ページ、フルカラー印刷でできるだけ写真を多く取り入れている。生徒が取り組む探究活動の様子や各種行事等の写真、生徒の行事における感想など、猪苗代高校での活動がわかりやすく伝わるような工夫をしている。昨年度は、委員からのアイデアで、3学年の保護者と生徒がそれぞれに宛てたサブライズメッセージを掲載した。年1回の発行であるが1年間の生徒たちの活動内容がわかるように内容の精選をしている。

そのほかの広報活動として、生徒が主体となって「生徒会誌」の編集・発行、「猪苗代高校通信」の編集をしている。「猪苗代高校通信」はA4サイズ、両面フルカラーで年3回発行し、猪苗代町内全世帯に配布されている。文章や構成を生徒が考え、猪苗代高校での生徒の活動が町民にわかるように工夫して作成している。また、教員による猪苗代高校の学校ホームページや公式SNS「X」、さらには県教育委員会「note」において学校の最新情報や生徒の活動状況を広く発信している。

#### (5) 調査広報委員会の活動を振り返って

ホームページやSNSで発信が容易な時代であり、本校でも学校側からの視点で積極的に活用しているが、生徒たちの活動をあえて紙面として形に残すことにより、その意義は感じる事ができた。活動が多岐にわたるため記事に載せるべき内容の精選には苦勞した。課題点として、記事の編集会議の参加率が低いことから今後は開催時期の見直しや回数を検討し、より多くの意見を取り入れ、広報活動のさらなる充実に努めたい。

## 2 質疑応答

質問：福島南高校

委員会の開催や会報の発行回数の見直しについて、今後の方向性は？

回答：各委員の出席率を上げるために、回数を減らす方向で考えている。中身の濃い打合せができれば年2回でも構わないと考えている。

補足：猪苗代高校

本校は小規模校であり、予算に限界もある。一方で探究に力を入れており、他校との交流も今後計画しており、旅費等の支出も今後増える予定である。他校の活動も参考にしたい。

回答：福島商業高校

印刷業者と相談し、紙質やページの折り方等を工夫したり、発行回数を減らしたりして、予算内で行っている。本校は、活動が好きな方、広報委員を第一希望とする方がいるおかげで、発行会議が短時間で濃密なものとなっている。

## ●「PTA会報作り」について

平商業高等学校 PTA副会長 鈴木 達也

### 1. 発表概要

#### (1) 本校の概要

大正2年、平商業補習学校として開校し、創立111年目。4回の移転を経て昭和41年に現在の場所に校舎を新築。

校訓は「自主独立」。生徒数は420名。流通ビジネス科、情報システム科、オフィス会計科と各学科さまざまな資格の取得を行っている。部活動では運動部、文化部、愛好部と多岐にわたり活動を行い、全国大会や東北大会に出場している。

#### (2) 本校の広報誌について

広報誌の「なかしお」は学校の地名からとられており、年3～4回程度集まり記事の内容確認、写真の選定、見やすさ、バランスなどをこだわり作成を行っている。令和4年度発行した第85号「なかしお」が、令和5年度いわき地区高等学校PTA広報誌コンクールにおいて第2位となり、県大会に出展。さらに県の代表3校に選ばれ、東北地区高等学校PTA連合会広報誌コンクール「優秀賞」を受賞している。A4サイズ、8ページ、フルカラー印刷で、写真を数多く取り入れ、PTA活動の報告や学校での生徒の様子を中心に、多岐にわたる1年間の活動内容を発信している。

#### (3) 本校の課題

発行した広報誌を多くの方に読んでいただきたい。発行しても親の手元に届かない、目の付くところがない。という悩みがある。そこでペーパーレスも考え、インターネットでの発信を検討。QRコード、URLで広報誌を見ることができるようになれば、保護者の方々にも気軽に見てもらえるのではないかと学校と検討し、学校メールでQRコードを発信してもらうことは可能であると回答をもらっている。学校によって見解は違うと思うが、このような発信の仕方これから必要になっていくのではないかと考えている。以前までの広報誌は、B4サイズで600部、約18万円ほどの経費が掛かっていたが、昨年A4サイズで600部、約12万円と6万円の経費の削減ができた。さらにQRコードやURLで発信することを考え、作成する部数を300部にすることでさらに経費の削減になるのではないかと考えている。

#### (4) 他校の工夫点・課題

- ・他校の広報誌の見せ方、配布の工夫、経費削減の仕方などを教えていただきたい。

回答：猪苗代高校

経費削減のために、QRコードやURLでの発信が良いのではないかと感じた。パスワードを入れると学年だより等がみられるような小・中学校がある。紙で必要と思う人も一定数いると思われるので、紙での発行とQRコードやU

R Lでの発信とダブルで行うのもよいのではないか。

回答：小名浜海星高校

小名浜海星高校では、デジタル化を行ってほしいという要望から、年2回発行している広報誌を、7月をデジタル化、3月を紙媒体で発行するようになった。

P T A役員が年3回、校正や写真の選定などを行っている。(基本的には教員が行っている)

デジタル化する上でのメリット・デメリットがあり、デジタル化することで、個人情報問題もあると考える。

## 2. 質疑応答

特になし

第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会(第5分科会)資料

### 「調査広報委員会」

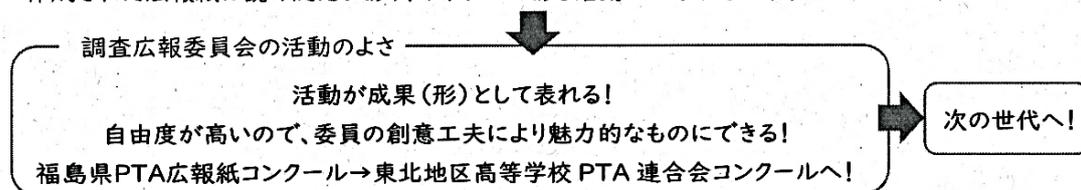
令和6年5月31日(金) 9:00~11:15

福島県教育庁社会教育課 社会教育主事 舘純平

#### 1 はじめに

##### ◎広報紙(PTA会報)の意義

広報紙は教職員が作成する学校からのお知らせ(学校便り等)ではなく、PTA会員(役員)が主体となって作成するもの。記事の作成や写真の撮影(選択)等、編集会議の負担が大きいと感じる方も多いのでは…。しかし、委員同士(時には教職員や生徒も)が協力し合い、「良いものを作ろう」という意識で作成された広報紙は読み応えがあり、やりがいのある活動につながるはず!



#### 2 発表から

##### (1) 福島県立猪苗代高等学校

###### 📷フルカラー写真の活用

→百聞は一見にしかず。活動の様子が伝わりやすい写真の活用は、見やすく読んでみたいと思わせる広報紙への第一歩です。

###### 📄サプライズメッセージの掲載

→まさに委員の皆さんの創意工夫!どんな広報紙が届くのか、読み手がワクワクするような企画です。

##### (2) 福島県立平商業高等学校

###### 📷写真やカットの活用

→読み応えのある記事はもちろんですが、温かい雰囲気で構成されていて、思わずページをめくりたくなる構成です。

###### 📄PTA活動(研修会)記録の掲載

→学校や生徒の様子だけでなく、PTA活動がどのように行われているかを伝えるのも広報紙の役割です。他の委員や参加された方の励みにもなります。

##### (3) 共通の課題として挙げられていたこと

🔍掲載内容の工夫(精選)、委員(や先生方)の負担、編集会議の参加率の低さ、  
広報紙(PTA会報)そのものの在り方(他の情報発信ツールとのすみ分け)

#### 3 広報紙づくりについて

##### (1) 目的の再確認(誰の何のために作成するのか)

・学校の様子を含めたPTA活動の状況を伝える、というのが最大の役割。PTA会員だけでなく地域住民にも配布しているPTAも。

→広報紙が学校・家庭・地域を結ぶパイプ役に!

→「誰が読むか」を改めて考えてみると、掲載内容のヒントが見えてくるかも。

(2) 読みたくなる広報紙作成のヒント

<p><b>【企画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ あいさつ、依頼原稿にアイデアを</li> <li>☑ アンケート調査にアイデアを</li> <li>☑ 取り上げる話題にアイデアを</li> <li>☑ 「学校新聞」にしないアイデアを</li> <li>☑ 企画会議でアイデアを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→聞きたいことをインタビュー記事(風)に!</li> <li>→専門的な立場の人に解説・座談会を行い記事に! さらに、他の委員会と連携・協力!</li> <li>→今話題になっていること・アンケートの結果等から! 保護者が参観できない行事(修学旅行、郷土学習等)</li> <li>→学校新聞との違いを意識!PTA活動を活性化</li> <li>→議論の場がPTA活動の一環、その学校ならではの 「広報活動」の目的を確認し、委員間の共通理解を!</li> </ul>
<p><b>【編集】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 見出しの付け方にアイデアを</li> <li>☑ 一面に目を引くアイデアを</li> <li>☑ 目線の流れにアイデアを</li> <li>☑ レイアウトにアイデアを</li> <li>☑ 写真の撮影にアイデアを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→原稿のテーマを直接表現・原稿の結論を表現 原稿の内容からキーワードを表現</li> <li>→写真や見出し、「もくじ」のような記事の紹介</li> <li>→見出し～前書き～本文</li> <li>→ページ分割・複数の構造・写真の大きさ(大小比・ 全面)余白の活用、キャプション(説明文)</li> <li>→シーン別撮影、背景、引きと寄り、楽しく、フラッシュ、 逆光・直射日光、複数枚、スマホ(大きさ・画素数)、 トリミング</li> </ul>
<p><b>【こんなことも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 印刷業者への依頼</li> <li>☑ グーグルフォーム等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→イラストや罫線などのデータを持っていることがほとんどなので、「こんな紙面にしたい」という希望を伝えてデータを作成してもらうことも(要相談)</li> <li>→アンケートの回答結果をグラフ表示することができます。画像をいかすこともできますが、あえて紙面には載せないでタイムリーな結果を提示することも</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>←テストアンケートを用意しました。 30秒で回答可能です!</p> </div>

(3) 気をつけたいこと

- ① 個人情報の確認→特に HP は慎重に(係、管理職での二重チェック)、画素数を落とす等の工夫、掲載の承諾は書面に残す、カメラやスマホ・PC 等にデータを残したままにしない。
- ② ネット上にあるいわゆる「フリー素材」は、利用規約等をしっかり読んでから活用する

4 社会教育課の事業 PR

- (1) ビブリオバトル→今年度から地区予選は県内7会場で実施します。
- (2) 絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」→高校生はオンラインで応募可能です。

## 編 集 後 記

第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会が5月30日、31日の両日にわたって行われました。令和に入り、コロナ禍を経て、6年ぶりの通常の形での県大会の開催となりました。県内各地から265名の参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。心より感謝申し上げます。

本大会集録は、会津大会の様子を記録したものです。講演会・分科会の内容が伝わるよう編集しました。

数年のコロナ禍によって福島県の教育環境も変化してきています。しかしながら福島県の教育についてPTAが互いに連携をとり、子どもたちの未来のために、活発に活動することで、よりよい方向に向かうと考えています。これからもPTA活動に対するご理解とご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

第74回福島県高等学校PTA連合会会津大会  
大会集録編集係 福島県立会津工業高等学校